

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

非ウイルス性肝疾患の多い沖縄県で活動する肝炎医療 Co の支援に関する研究

研究分担者：前城達次 浦添総合病院 肝臓内科 副部長
研究分担者：新垣伸吾 琉球大学病院 第一内科 特命講師
研究分担者：島袋尚美 公立大学法人名桜大学 人間健康学部 看護学科 准教授

研究要旨：沖縄県は離島僻地地域が多く、それが一因となって飲酒を含めた生活習慣病の割合が高いことが伺われる。住民の生活習慣を改善させるハードルの高さに苦勞している肝炎医療コーディネーター（肝 Co）は少なくなく、より効果的な啓発方法が望まれる。現在まで肝 Co 支援の一環として肝臓専門医からの情報提供を対面や WEB での講習会を通じて行ってきたが、より具体的な方法について検証する計画を行った。

① 「肝 Co の住民説明の際に肝臓専門医が同席もしくは WEB で同席することの効果」
肝 Co が実際に説明する際に、医療として相談・紹介できる肝臓専門医を具体的に述べたほうが良いという意見も多数あり。そのため肝臓専門医が同席（WEB）することで説得力をさらに向上させることができるか、その結果生活習慣の変化の有無について検討する。

② 「Fibroscan による具体的な数値を用いた啓発の効果検証」
肝 Co と一緒に啓発する際に疾患に関する説明に加えて、その対象者の脂肪肝の程度や肝硬度など、対象者の現状評価をより具体的な数値を用いて行うことでその後の生活習慣改善から脂肪肝の程度に変化が生まれるかどうかを検証するが今年度はその計画及び Fibroscan の使用に関して検証した。

A. 研究目的

沖縄県は肝疾患死亡率が全国一高く、その要因は主に飲酒や生活習慣病に関連した肝疾患である。特にへき地離島地域では複数の要因で都市部と比較して飲酒機会、飲酒量が多く、逆に運動習慣が少ない可能性がある。そのため飲酒を含めた生活習慣病の割合が高い地域もあり、同地域の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）も住民の生活習慣改善に資する活動を推進しているようだが、その困難さに苦勞している場合が多い。今まで琉球大学病院と連携して情報共有の機会を構築し肝 Co 支援から一般住民への啓発を試みているが、肝 Co が住民への啓発を行う際に生活習慣改善のハードルが高いことがよく聞かれる。加えて特にへき地

離島地域においては肝臓専門医の診療の難しさ、肝 Co からの肝臓専門医への相談の難しさなどがあり、住民への説明の際に肝臓専門医が同時に説明できれば、その啓発効果が向上すること、さらに肝 Co の説明のレベルも上昇することが期待できる。加えて啓発の効果を向上させるために、対象者へ肝疾患に関する情報のみではなく、対象者個人の脂肪肝定量値を用いて説明することが効果的かと考えその方法を検討した。

B. 研究方法

1) 「肝 Co の住民説明の際に肝臓専門医が同席もしくは WEB で同席することの効果」
現在までは肝 Co に対して対面や WEB からの情報提供を行ってきたが、今回は肝 Co が住

民への説明の際に肝臓専門医が同席もしくはWEB上で同席しながら疾患啓発に参与し、アンケートなどを用いてその印象や効果予測などを検討することとした。

2)「Fibroscanによる具体的な数値を用いた啓発の効果検証」上記説明の効果を強化する方法の1つとして具体的な数値を用いて啓発する方法を検討した。現時点ではへき地離島地域にて肝Coと住民説明の際に検査を施行させて頂きCAPなど具体的な内容を用いて説明する。さらに一定期間経過後に再度の検査を行い、その効果検証、加えてアンケートを用いてこの方法の効果を検証することとした。また肝Coとの説明医の機会のみではなく、へき地離島における診療所などで通常の腹部超音波検査に合わせて脂肪定量や肝硬度を測定し、上記同様に一定期間経過後にフォローする。上記を遂行するにあたり年度途中からではあるがFibroscanと既存の肝硬度測定、肝線維化マーカーとの相関やFibroscanの使用法に関して検討を行った。

研究結果

1)今年度は1)に関して現時点では宮古島の肝Coや伊江島の肝Coと計画を作成中で、次年度には計画完成及び実施予定である。

2) Fibroscanを用いた具体的な数値による啓発の効果検証として、先述の地域住民への説明の際に検診などでは行われない肝線維化、肝脂肪定量を行い、啓発に上乘せがあるかどうか検討するために計画を完成させる。検診以外の実施については宮古島市、うるま市におけるクリニックにて実施するよう計画作成中で次年度に実施する。さらにこれらを実施するにあたってその操作性や検査者の機器取り扱いに関しても信頼性を高めるために使用方法の習得、他の線維化評価法と差異が無いかどうかを確認した。男性10例、女性14例で肝疾患の原因としてHBV3例、HCV5例、MAFLD10例、ALC1例、

その他5例であった。各患者条件の中央値は年齢48.5歳(21-75)、M2BPGi 0.865coi、(0.38-18.47)、FibroscanSWE 5.3kPa(2.1-55.5)、FIB4index 1.3(0.38-18.47)であった。今回のFibroscanと既存機器で音響的加圧によるVTQ、及び線維化マーカーであるFIB4indexを比較検討した。FibroscanSWEとVTQにおいては $R=0.878$ 、 $P<0.001$ 、FibroscanSWEとFIB4indexでは $R=0.727$ 、 $P<0.001$ と両者ともに正の相関が確認できた。また各検査におけるばらつきの評価として四方分位/中央値(IRQ/median)を検討したが検査信頼性を担保できる30%を超えることはなく検査を施行できた。従って次年度はFibroscanを用いて肝線維化評価だけではなく肝脂肪定量を行い、これを用いて肝Coの患者支援に寄与するか検討する。今年度は上記の計画を完成させる段階まで、次年度にはその実行できるようにする。

C. 考察

沖縄県で認定された肝Coも240名を超えているが、転勤転属などで実際に肝Co活動を十分に行えている方も少ない。しかしへき地離島地域においてはメディカルスタッフの少なさからか、長期間継続して活動している肝Coも多く、その活動における問題も多い。特に生活習慣病の疾患の重大性、また生活習慣改善の困難さを現場で実感している模様である。そのためにもへき地離島地域の肝Co支援をより効果的に充実させることが同地域での生活習慣病患者を減らす可能性があると考えられる。

D. 結論

今年度は沖縄県内のへき地離島地域の肝Co支援の方法として、情報提供の機会の向上に加えてさらに具体的な支援方法に関して計画作成を行った。次年度はその計画の実行し、さらにその効果検証を行う。

E. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

琉球大学病院開催のメディカルスタッフの回に参加して講義などを行った。

第1回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「脂肪肝について」

第2回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「B型肝炎について」

第3回肝疾患にかかわるメディカルスタッフの会 講演「C型肝炎について」

F. 研究発表

第122回日本消化器病学会九州支部例会／
第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 抄録集 p75

特別企画 患者さん視点で消化器診療の一翼を担う「メディカルスタッフゆいまーる」～沖縄からの発信～ 司会：江口有一郎 砂川綾美 特別発言：八橋 弘

「モチベーション維持を目指したメディカルスタッフ向け研修会への取り組み」

中山美樹 砂川綾美 田端そうへい 新垣伸吾 前城達次

「肝疾患の成因が特徴的な地域である沖縄県におけるメディカルスタッフへの支援について」

前城達次、新垣伸吾、田端そうへい、山本和子、砂川綾美

新垣伸吾、田端そうへい、砂川綾美、前城達次. 離島医療における肝炎医療コーディネーターの活躍への期待と課題. 肝胆膵 88(2):193-199, 2024.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし